

MICRO CADAM Helix Webセミナー

メニュー・バー操作解説 [カスタマイズ] 編 Part3

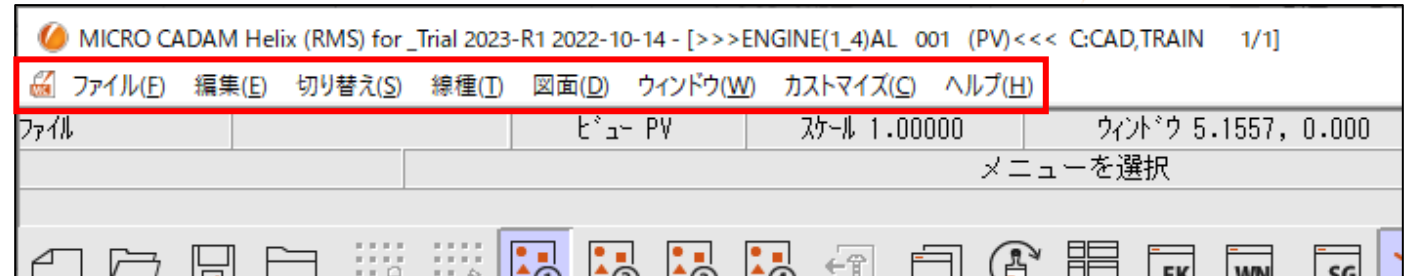
株式会社CAD SOLUTIONS
営業本部

はじめに

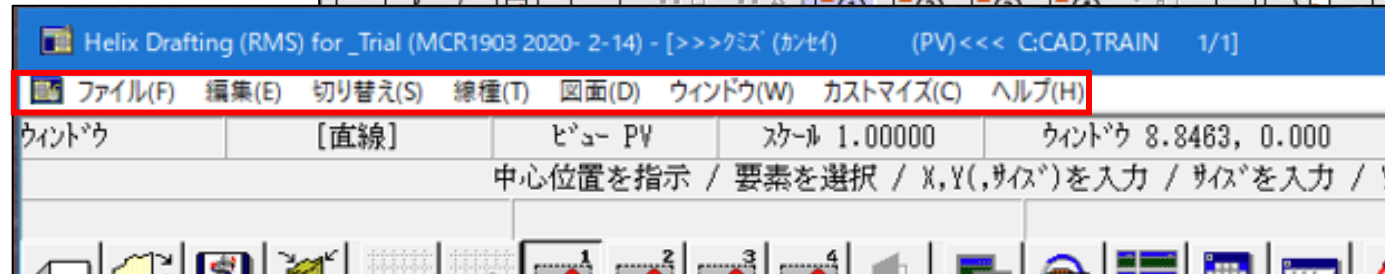
- メニュー・バーとは、ファンクション/メニューの機能を補完するためにMC V3以降に追加されたツールセットで、これまでに多くの機能拡張を行ってきました。

バージョン別のメニュー・バー表示

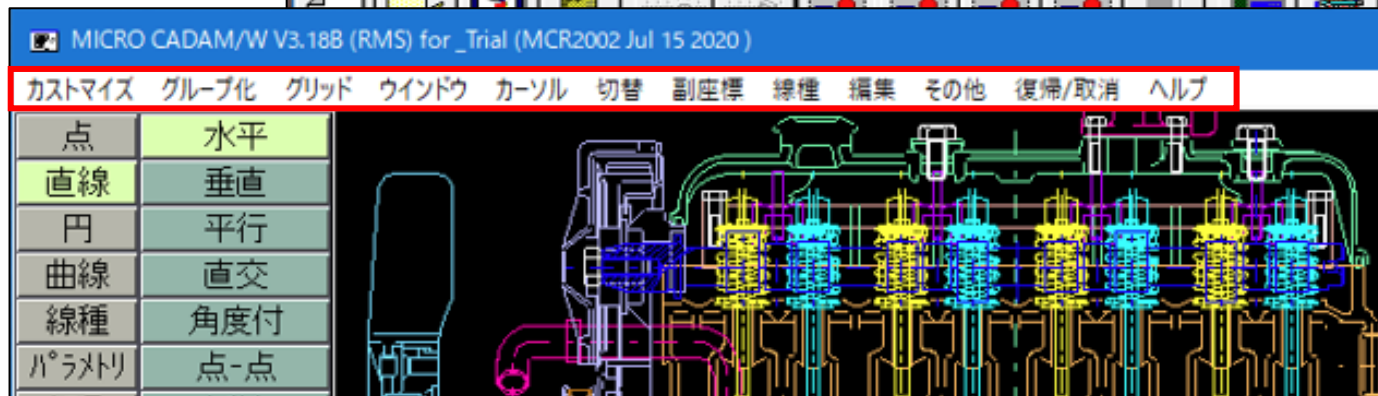
MC Helix 20xx

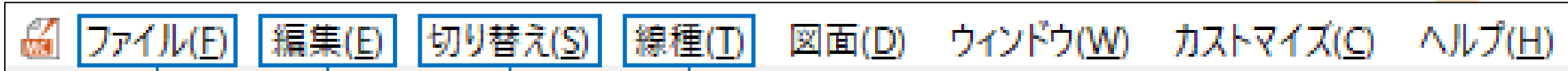


MC Helix V4



MC V3





新規作成(S)
 呼び出し(A)...
 上書き保存(V) / DXFファイルの上書き(Y) ★
 名前を付けて保存(E)... / DXFファイルの別名保存(E)... ★
 すべて保存(L)
 閉じる(C)
 すべて閉じる(O)
 カプセル化図面呼び出し(P)...
 画面印刷(E)
 印刷の設定(T)...
 印刷(I)
 簡易出力(Y)...
 PDF形式で保存(B) ★
 DXF形式変換(M) ▶ MC->DXF変換(L) ★
 DXF->MC変換(N)
 ログオフ(G)
 終了(X)

★印の付いた機能を使用するには、ライセンスが必要です。

図形複写(ビットマップ)(B) ▶ クリップボード(カラー)(C)...
 クリップボード(モノ)(L)...
 ファイル(カラー)(F)...
 ファイル(モノ)(M)...
 図形複写(メタファイル)(M) ▶ クリップボード(カラー)(C)...
 クリップボード(モノ)(L)...
 ファイル(カラー)(F)...
 ファイル(モノ)(M)...
 注記貼り付け(N)
 元に戻す(D)
 やり直す(R)
 テキストを元に戻す(U) Ctrl+Z
 切り取り(T) Ctrl+X
 コピー(C) Ctrl+C
 貼り付け(P) Ctrl+V
 削除(E) 削除
 文字列の検索(S)...
 図形の検索(A)...
 ハイパーリンク(H)...
 オブジェクト(O)...
 リンク(L)...

グリッド・ロック(G)
 グリッド表示(S)
 グループ1組(1)...
 グループ2組(2)...
 グループ3組(3)...
 グループ4組(4)...
 部品(B) ▶ 階層(T)...
 トップ(T)...
 親(U)
 子(D)
 次(N)
 前(P)
 解除(E)
 解除確認(C)
 子図(D)...
 ビュー(V)
 非現行ビュー色(N) ▶ 設定(S)
 解除(C)
 オーバーレイ(O)
 副座標(B)...
 レイヤー(Y)...
 オーバーレイ・レイヤー(L)
 グローバル変形(B)
 文字コード(C) ▶ 自動(A)...
 日本語(J)...
 中国語(C)
 台湾語(T)
 韓国語(K)
 ラテン文字1(1)
 ラテン文字2(2)
 キリル文字(Y)

線種1(1)...
 線種2(2)...
 ペン(P)...
 カラー(C)...
 無指定色(D)
 システム・カラー(S)...
 線幅(W)...
 線幅解除(O)
 継承モード(I)...



- ウィンドウ複写(W)
- 子図ウィンドウを開じる(O)
- 状態保存(S)
- 状態復元(L)
- 自動状態保存(U)
- 再表示(P)
- 図面の再表示(D)
- 全図面の再表示(A)
- 重複表示(S)
- 重複要素の確認(O)
- 表示範囲の変更(R)...
- 拡大表示(Z)...

- タイル・キープ表示(K)
- タイル表示(T)
- カスケード表示(O)
- アイコン整列(A)
- 標準サイズ(O)
- ファンクション・ボックス(F)...
- スマートガイド・ボックス(S)...
- <ウィンドウ>ボックス(W)...
- メッセージ・ボックス(M)...
- レイヤー・ボックス(L)...
- 変数ボックス(V)...
- 線種ボックス(Y)...
- 1 >>>
- .
- ・ (図面ウィンドウのリスト)
- .
- 9

- カーソル(C)
 - ▶ 十字(C)
 - ▶ 全画面(F)
 - ▶ 小十字(S)
 - ▶ 矢印(A)
 - ▶ 小四角(Q)
 - ▶ プラットフォーム(P)
- マウス(M)...
- キーボード(K)...
- 図面選択(W)
 - ▶ シングルクリック(S)
 - ▶ ダブルクリック(D)
- スマートガイド(G)
- スマートハイライト(H)
- スマートストレッチ(S)
- スマートアシスト(A)
- スマートメニュー(P)
- ラバーバンド表示(B)
- 座標値表示(O)
- 配置子図要素選択(I)
- ファンクション(F)...
- メニュー(N)...
- メッセージ(E)...
- 図面ウィンドウ(D)...
- New Look(L)...
- 文字入力方法(T)
 - ▶ 間接入力(T)
 - ▶ 同時入力(D)
 - ▶ 直接入力(O)
- 環境設定再読み込み(L)
- 環境設定ファイル(S)...
- ユーザーボタン定義(B)...
- イベントスタック(V)
 - ▶ 実行(E)...
 - ▶ 直ちに実行(X)
 - ▶ 記録(R)...
- VBコード作成(X)

- オンライン・ヘルプ(O)...
- チュートリアル(T)...
- ヘルプ・ボックス(B)...
- ログ収集(S)...
- お役立ち情報(I)...
- バージョン情報(A)...

今回解説する範囲

メニュー・バー [カスタマイズ] 編 Part3 解説

メインメニュー	サブメニュー	解説
ユーザーボタン定義(B)...		<p>下記の [イベントスタック] で記録した一連の操作や、アプリケーション・プログラムをボタンに割り当てて使用できます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り当てた内容は「ボタン機能定義ファイル (.BTN)」に保存されています ・ボタン機能定義ファイルを指定すると、「ユーザー定義機能を設定」ダイアログが表示されます ・イベントスタックで操作を記録した場合、その一連の操作をボタンに割り当てたり、記録されている操作手順を編集できます ・実行可能なプログラムもユーザーボタンとして割り当てが可能です
イベントスタック(V)		<ul style="list-style-type: none"> ・操作手順の記録や記録した操作手順の実行が可能です ・次のメニューで表示されるダイアログ・ボックスを使って操作します
	実行(E)...	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボタン機能定義ファイル」を指定すると、「イベントスタックの実行」ダイアログが表示され、操作手順を再現できます
	直ちに実行(X)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボタン機能定義ファイル」を指定すると、記録されている操作手順を直ちに再現できます
	記録(R)...	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボタン機能定義ファイル」を指定すると、「イベントスタックの記録」ダイアログが表示されます ・[終了] を押すまでの間に行った一連の操作が記録され、「ボタン機能定義ファイル」に書き込まれます

イベントスタックについて (1/2)

● イベントスタックを利用するメリット

- 何度も同じ操作を繰り返す作図手順を効率化できます。
- 多くの手順を踏んで実行する操作を簡略化できます。

● 適用例

➤ 子図連続作成

- ✓ ビュー上に描かれた数十個の部品図すべてをFK<子図>【要素複写】で子図化する場合
⇒繰り返し何度も実行しなければならない操作部分をマクロ化できます。

➤ 要素別グループ化機能

- ✓ FK<グループ>【グループ化2】の要素別グループ化機能を応用する場合
⇒操作手順を削減し、他の要素をグループ化する際にも応用できます。

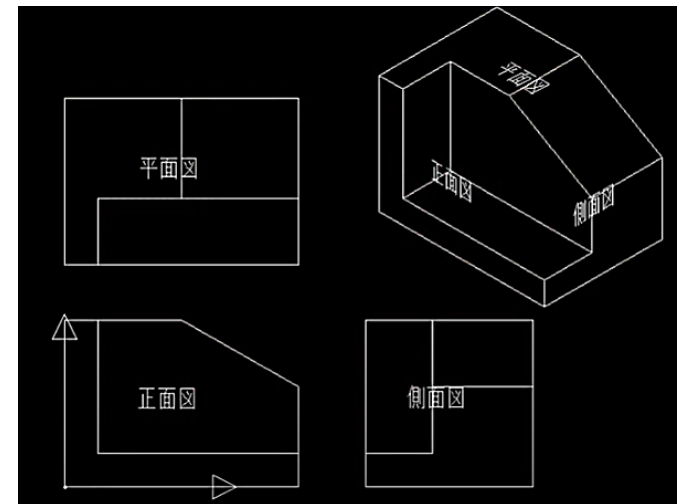
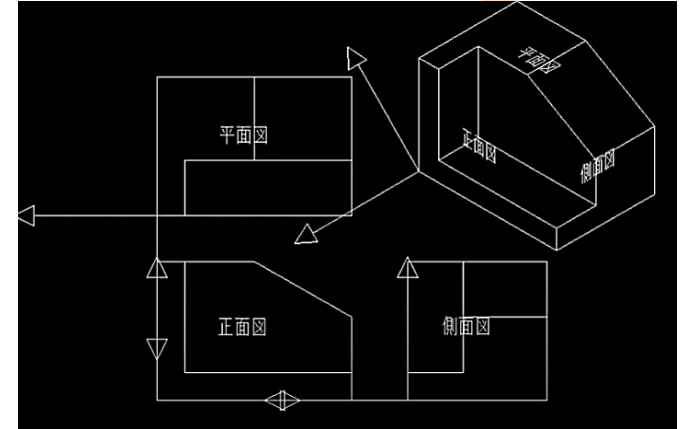
➤ 複数ビューの統合

- ✓ 複数のビュー座標を持った図面をDXF/DWG経由で他CADに渡す場合
⇒他CADで読みとりやすくするためのビューの統合化操作を簡略化できます。

➤ 部品欄情報のCSV出力

- ✓ 部品欄情報をCSVに出力する場合
⇒複数図面に同じ操作を行う場合の手順を効率化できます。

複数ビューの統合



イベントスタックについて (2/2)

● 制限事項

イベントスタックに記録し、実行する機能には下記の制限がありますのでご注意ください。

➤ 記録時の制約

- ✓ 1つのイベントスタックの中に、他のイベントスタックを含めることはできません。
- ✓ 下記を除き、メニュー・バーの機能は使用できません。
 - [図面] → [再表示]、[図面の再表示]、[全図面の再表示]
 - [ウィンドウ] → [ファンクション・ボックス]
 - [ヘルプ] → [オンライン・ヘルプ]
- ✓ FK<アクセス>とFK<イメージ>は使用できません。
- ✓ FK<線種>【線種1】及び【線種2】のダイアログ・ボックスは使用できません。
- ✓ ユーザーが定義したボタンは使用できません。
 - [ファンクション・ボックス] [ファンクション・バー] [ツール・バー] 及びメニュー内のユーザー定義ボタンなど
- ✓ スマート・ガイドで部品、ビュー、子図、またはオーバーレイのメンバー図面を切り替える機能は使用できません。(図参照)

(例) 子図上でマウスの左ボタン+右ボタンで表示

キャンセル(1)	
前要素(2)	
次要素(3)	
子図	
ビュー	
角度	0
倍率	1
子図番号	2
子図名	

➤ 実行時の制約

- ✓ FK<子図>の場合
 - 記録内容に子図モードの操作が入っていると、実行時に表示されるメニューが異なります。また、動作自体は正常に稼働しても、登録内容を編集する場合には子図モードに入った操作のところからエラーの「X」が表示されます。
FK<子図>関連のイベントスタックを登録する場合、できるだけ子図モードの中で操作する手順を含まないような作成方法をご検討ください。
- ✓ FK<部品>の場合
 - 記録内容に部品モードの操作が入っていると、実行時に表示されるメニューが異なります。また、動作自体は正常に稼働しても、登録内容を編集する場合には部品モードに入った操作のところからエラーの「X」が表示されます。
- ✓ FK<オーバーレイ>の場合
 - 新規に作成する場合と既存のオーバーレイ図面を呼び出す場合では、FK<オーバーレイ>選択の際に表示されるメニューが異なります。

- 同じ操作を繰り返す一連の手順を記録し、その記録を呼び出すことで操作を簡略化できます。

➤ 適用例

✓ ビュー上の多数の溶接記号（右図の緑色部分）を連続で子図化します。

➤ 記録する操作の概要

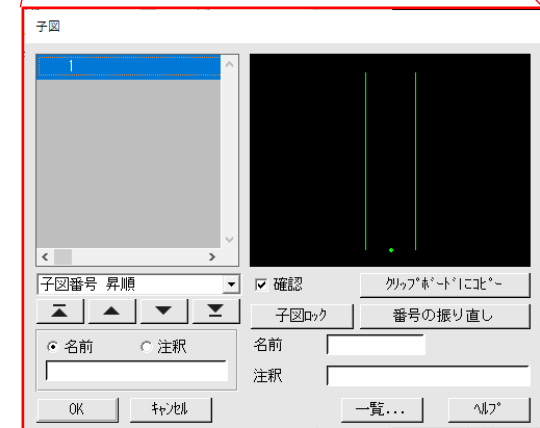
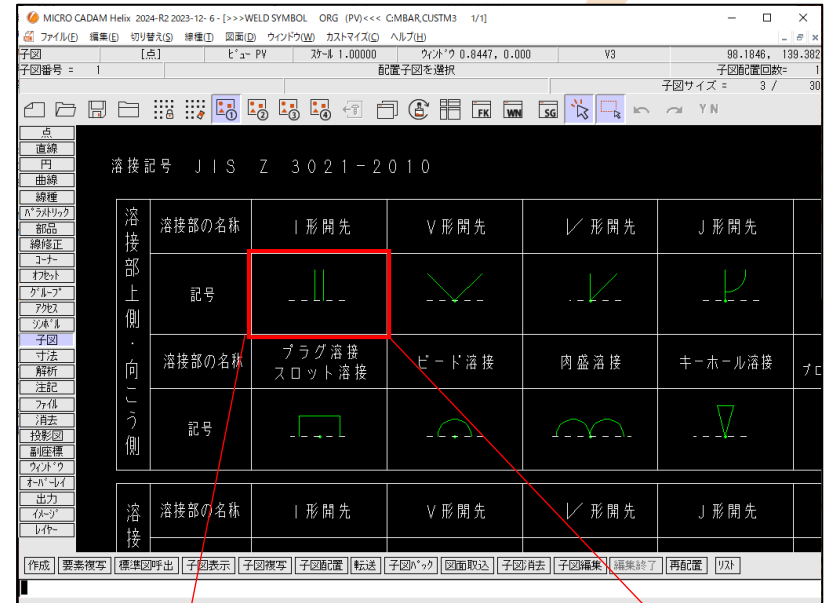
1. メニュー・バー [カスタマイズ] → [イベントスタック] → [記録]
2. 記録を保存するファイル名を入力する
3. 表示用の名称を指定する
4. 記録を [開始] する

操作を記録する部分

5. FK<子図>
6. 【要素複写】
7. 【◎配置子図化】
8. 子図にする図形を矩形で指示1 (IND)
9. 子図にする図形を矩形で指示2 (IND)
10. YN (承認)
11. 【削除】
12. 点線を選択 (SEL)
13. YN (終了)
14. 基準点を選択
15. [↑]
16. [終了]

イベントスタック実行時に青字の操作が省略できます。

操作を記録するための図面と、その操作を反映させたい図面とは必ずしも同一図面である必要はありません。



メニュー解説：イベントスタック [直ちに実行] と [実行]

● [直ちに実行] と [実行] の相違点

➤ [直ちに実行]

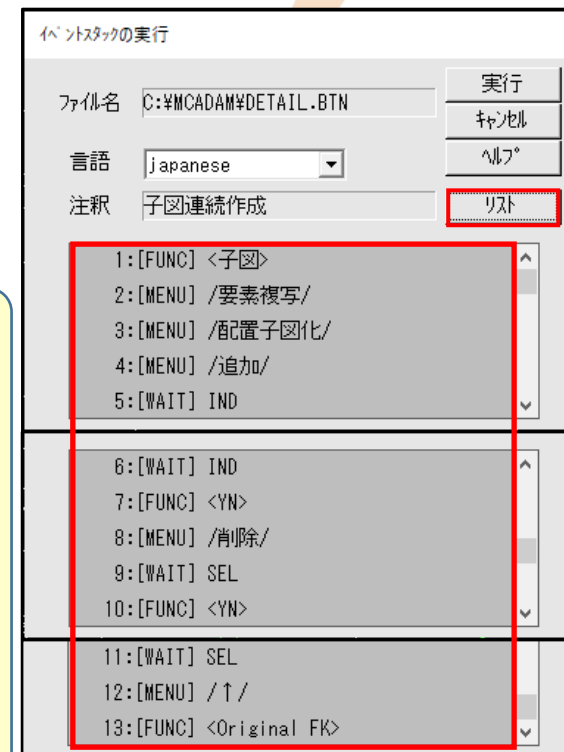
✓ 記録した操作を直ぐに実行できます。

➤ [実行]

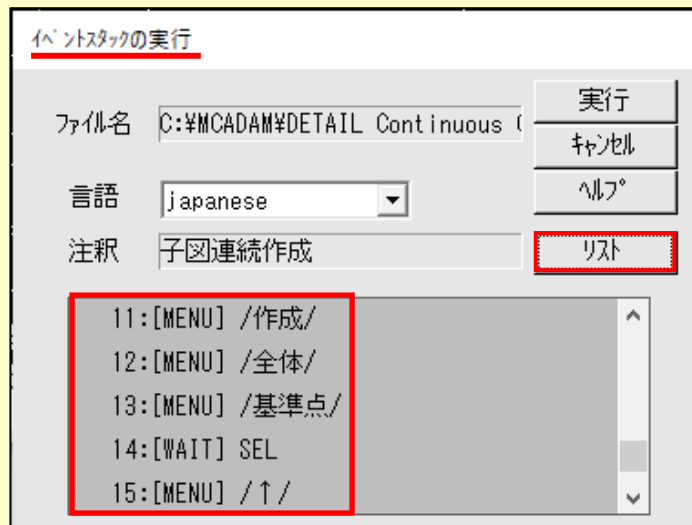
✓ 「イベントスタックの実行」ダイアログ内の [リスト] 機能で、実行前に操作内容を確認できます。

子図機能を利用したイベントスタックの場合、子図モードでの操作部分がエラー「X」で表示されます。「イベントスタックの実行」ダイアログ内の [リスト] の操作手順では正常に表示されますが、後述する [ユーザーボタン定義] の「イベントスタックの編集」ダイアログではエラー「X」が表示されます。なお、エラー表示されているイベントスタックでも正しく実行できる場合があります。また、記録時と実行時でメニュー表示に相違が出る場合があります。

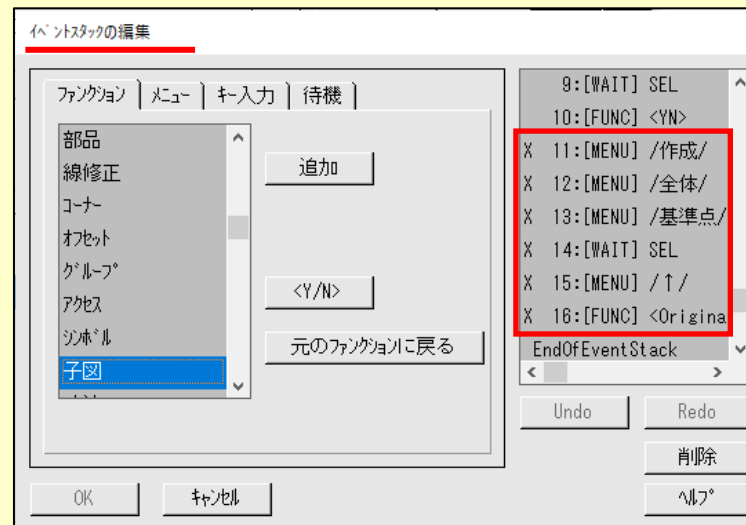
[実行] の起動ダイアログ



[実行] の起動ダイアログ



[ユーザーボタン定義] の編集



- 作成済みのイベントスタックを編集し、より汎用性のある機能を付加できます。

➤ 編集可能な機能

✓ ファンクション

- 標準提供のファンクションから選択できます。

✓ メニュー

- 標準提供のメニューから選択できます。

✓ キー入力

- 文字列や数値をキー入力します。

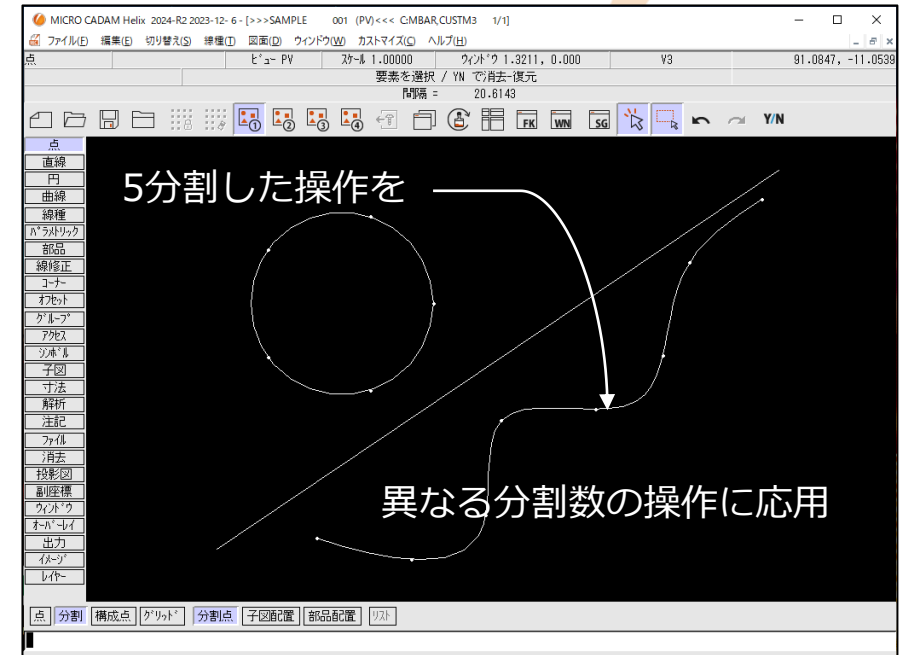
✓ 待機

- キー入力や選択 (SEL)、指示 (IND)、YNなどの操作が行われることを待機します。

➤ 適用例

✓ 点分割の分割数を変数化

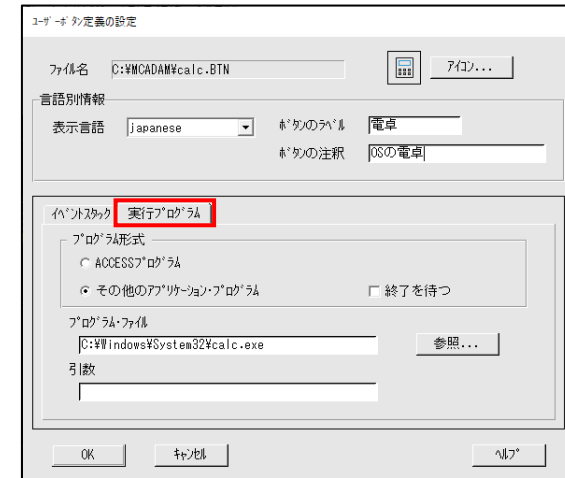
- FK<点>【分割】で、円を5分割する点を作成するイベントスタックを記録し、キー入力した分割数「5」を変数化して他の分割数に対応します。



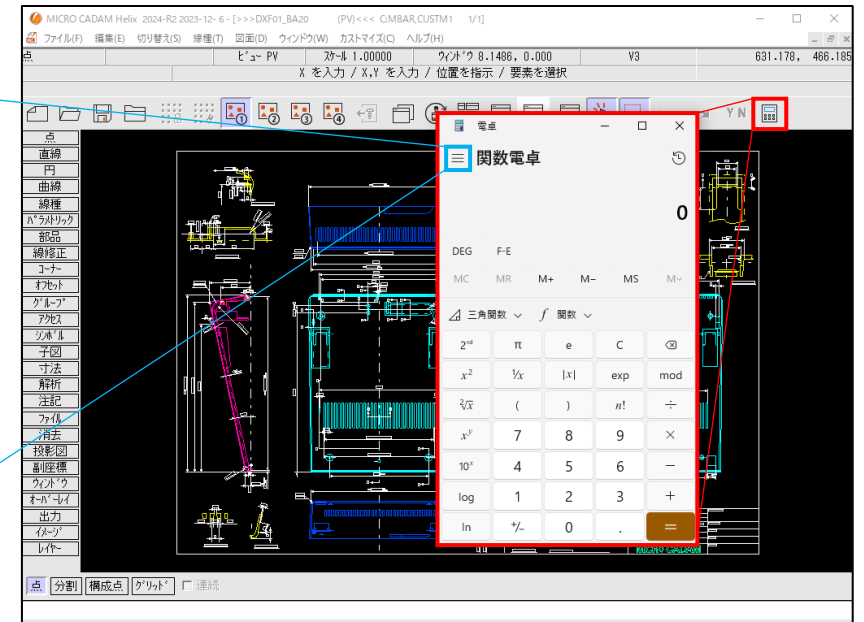
メニュー解説：ユーザーボタン定義 [実行プログラムの設定]

● 実行プログラムの設定機能

- 下記のアプリケーションを実行する機能を設定できます。
 - ✓ ACCESSプログラム
 - ✓ その他のアプリケーション・プログラム
 - 拡張子が～.exe、～.com、～.bat、～.cmd
- 設定例
 - ✓ Windows OSが標準で提供している電卓機能をMC Helixのツール・バーから起動できます。



電卓の機能



メニュー解説：ユーザーボタン定義 [アイコン定義]

- 記録したイベントスタックを実行する際、アイコンを定義しておくとは便利です。

- アイコン作成について

- ✓ システムで用意されたものを使用する方法に加え、任意のグラフィックツールなどを利用して作成したアイコンをユーザー定義アイコンとして登録できます。

(参考) ユーザー定義アイコンの作成には？

フリーソフトウェアを含め様々なツールを利用可能です。

アイコン化したい画像を「～.png」などのデータ形式で作成し、ユーザー定義アイコンに使用可能なデータ形式である「～.ico」に変換して利用します。

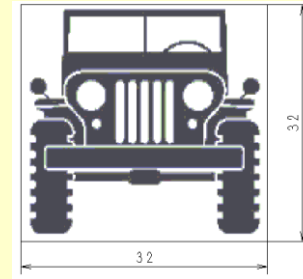
【作成上の留意点】

- ・ 大アイコン用と小アイコン用を別々に作成します。
- ・ 32×32ピクセルのサイズで作成します。
- ・ 小アイコンを作る際は、サイズ自体は32×32ピクセルのまま、画像中央部分に16×16ピクセルで作成します。

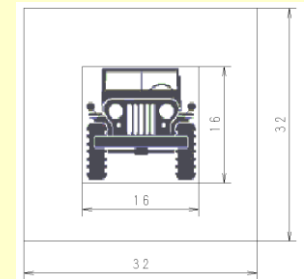
【アイコン指定時の留意点】

アイコンの指定は「アイコン・ファイル選択」ダイアログで行います。大アイコンしか使用しない場合でも小アイコンの指定が必要ですが、その場合には、大アイコンと同じファイルを指定すればOKです。

(大
ア
イ
コ
ン)



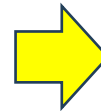
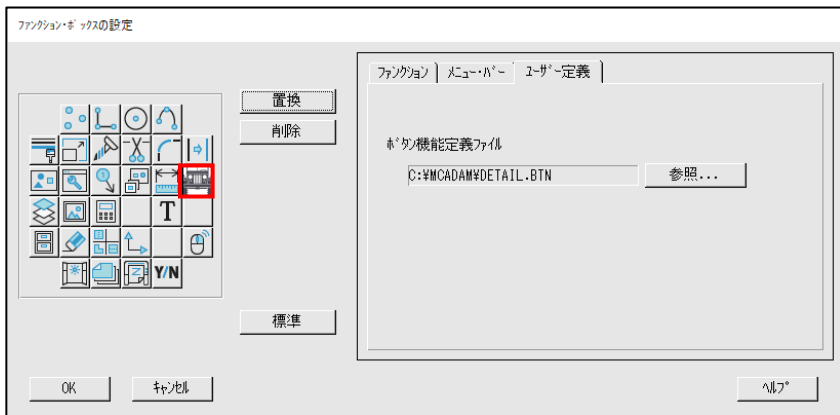
(小
ア
イ
コ
ン)



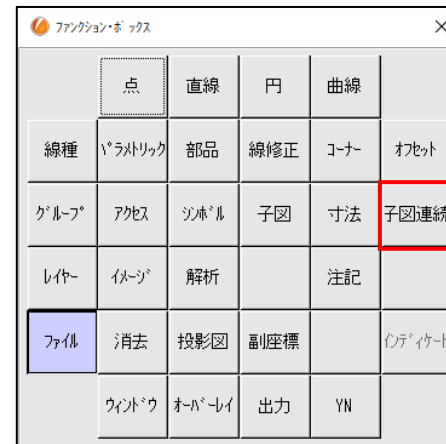
メニュー解説：イベントスタック実行のショートカット設定（1/5）

- メニュー・バー [カスタマイズ] → [ファンクション] → [ファンクション・ボックス] への追加
 - ボタン機能定義ファイルをファンクション・ボックスに追加することで、繰り返し行う操作をワンクリックで実行できます。

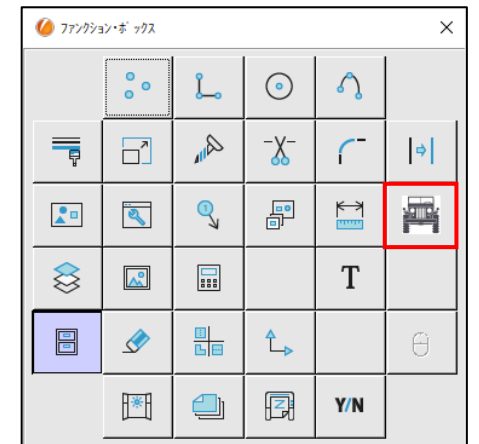
「ファンクション・ボックスの設定」ダイアログ



(例) 文字表示の場合



(例) 大アイコン表示の場合



(参考)

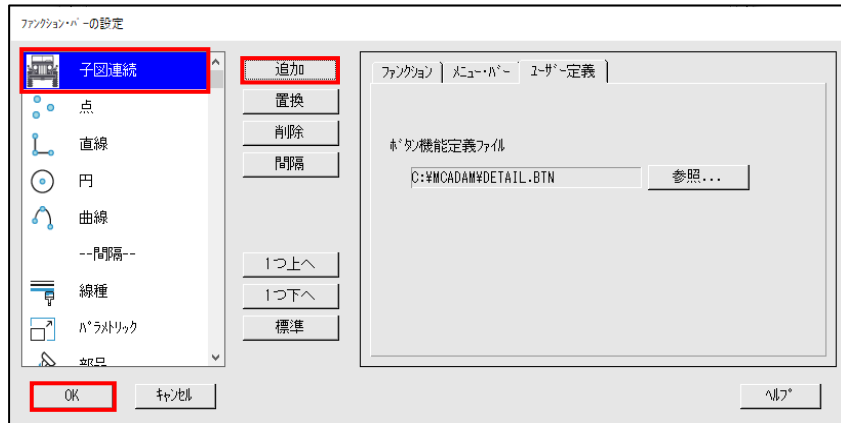
ボタン定義ファイルをアイコンやボタンのラベルを定義せずにファンクション・ボックスに配置して使用することが可能です。
 アイコン表示の場合：アイコンは表示されませんがボタンは機能します。
 文字表示の場合： “Untitled” と表示されます。



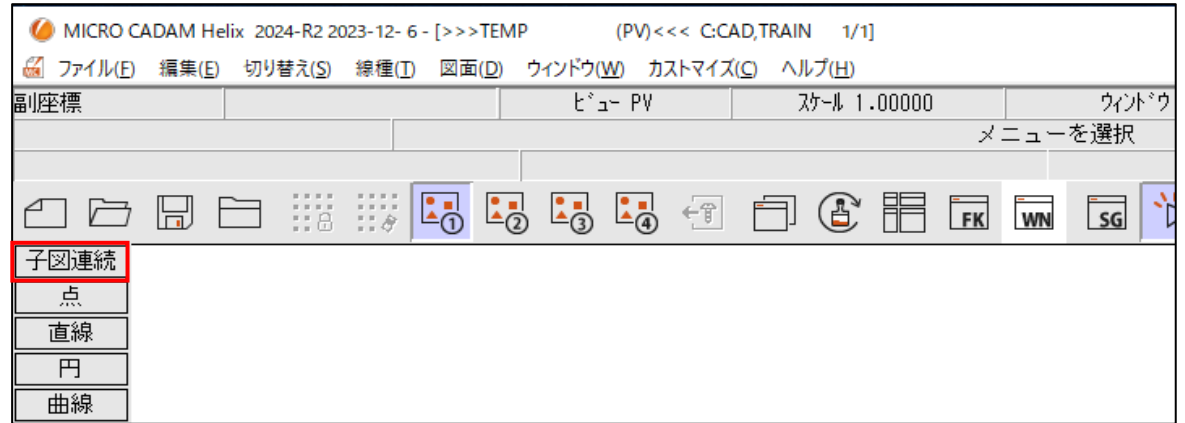
メニュー解説：イベントスタック実行のショートカット設定（2/5）

- メニュー・バー [カスタマイズ] → [ファンクション] → [ファンクション・バー] への追加
 - ボタン機能定義ファイルをファンクション・バーに追加することで、繰り返し行う操作をワンクリックで実行できます。

「ファンクション・バーの設定」ダイアログ

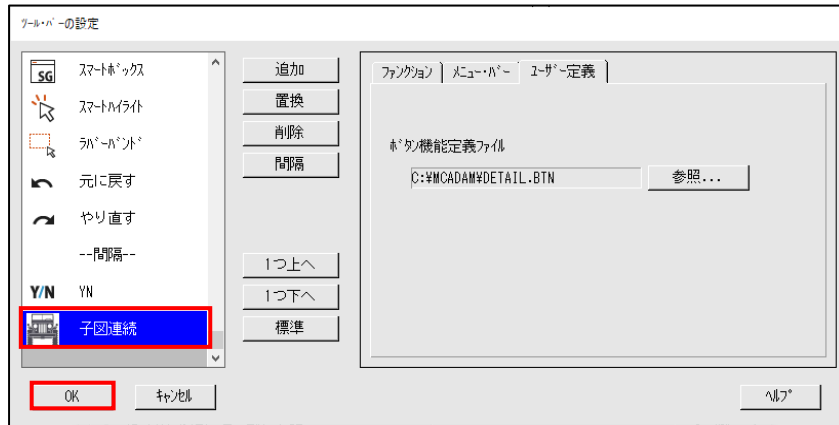


(例) ファンクション・バーを画面左側に文字で表示させる場合

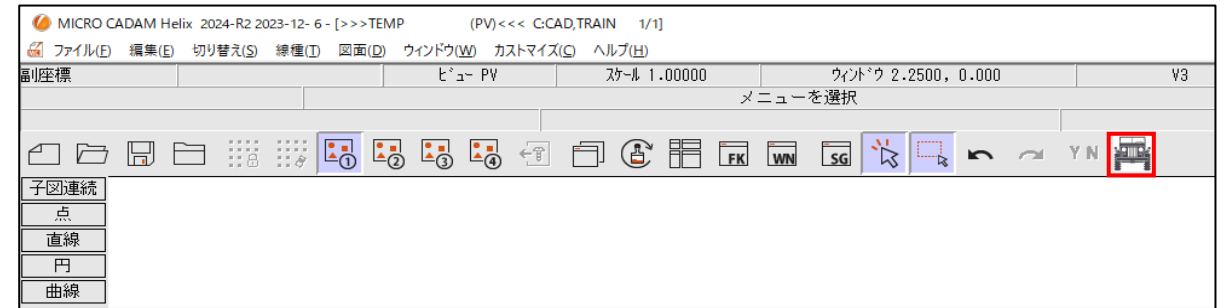


- メニュー・バー [カスタマイズ] → [ファンクション] → [ツール・バー] への追加
 - ボタン機能定義ファイルをツール・バーに追加することで、繰り返し行う操作をワンクリックで実行できます。

「ツール・バーの設定」ダイアログ



(例) ツール・バーを上部に大アイコンで表示させる場合



メニュー解説：イベントスタック実行のショートカット設定（4/5）

- メニュー・バー [カスタマイズ] → [ファンクション] → [ファンクションキー] への追加
 - ボタン機能定義ファイルをファンクションキーに追加することで、繰り返し行う操作をワンクリックで実行できます。

「ファンクションキーの設定」ダイアログ



(例) ファンクションキーを上部に文字で表示させる場合

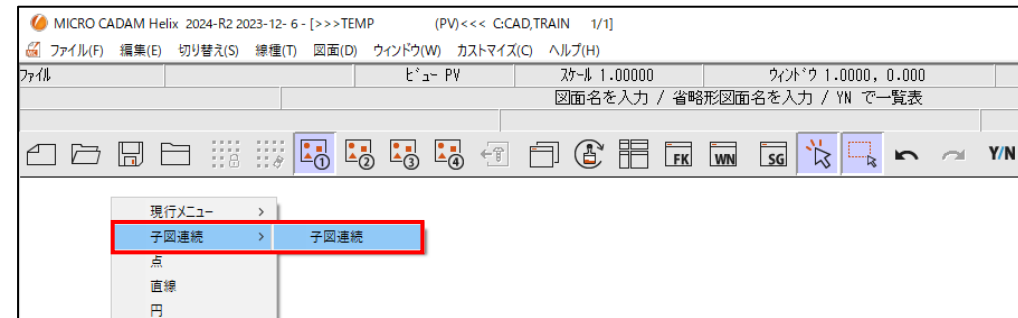


- メニュー・バー [カスタマイズ] → [ファンクション] → [ポップアップ・メニュー] への追加
 - ボタン機能定義ファイルをポップアップ・メニューに追加することで、繰り返し行う操作をワンクリックで実行できます。

「ポップアップ・メニューの設定」ダイアログ



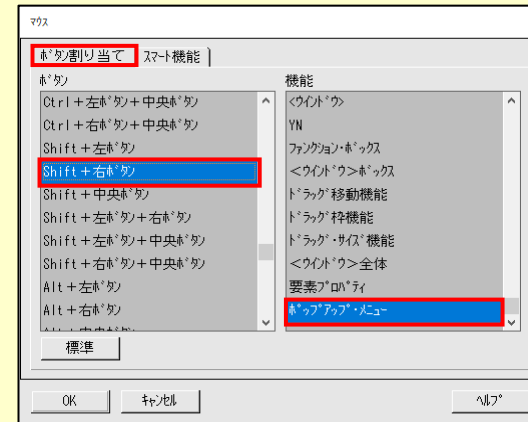
(例) Shift+右ボタンでビュー上に表示



ポップアップ・メニューを利用するには下記の設定が必要です。

(設定例)

- ・メニュー・バー [カスタマイズ] → [マウス]
- ・左側のボタン欄：Shift+右ボタン
- ・右側の機能欄：ポップアップ・メニュー



まとめ (1/2) : メニューバー [カスタマイズ] 編 Part3

詳細につきましては下記のコンテンツも合わせてご利用ください。

- 参照マニュアル：操作解説書

- Windows [スタート] → [MICRO CADAM Helix] → 「操作解説書」
→メニュー・バーの使い方→メニューの概要
→メニューの概要【カスタマイズ】

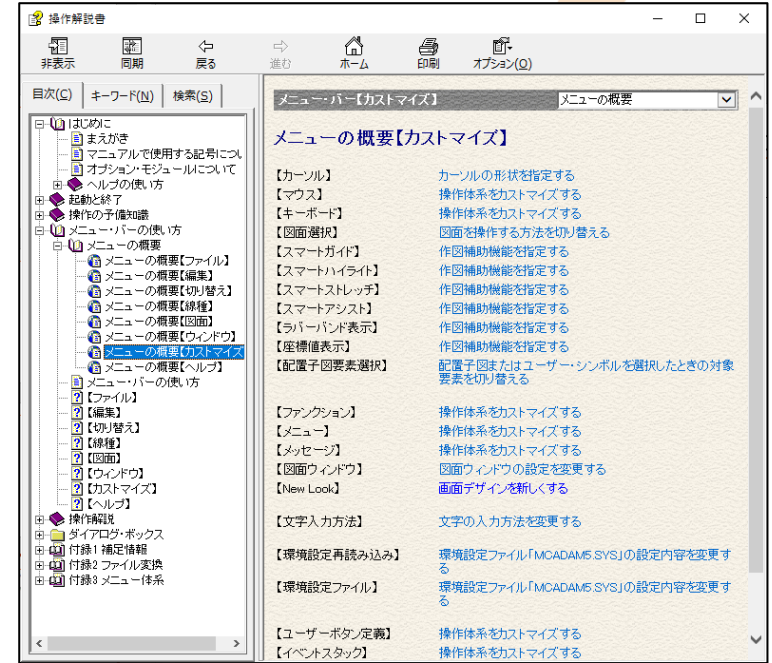
- 参照マニュアル：カスタマイズ・ガイド

(マニュアルをダウンロードできます)

1. CAD'S SUPPORT DESKにログインする
 1. <https://support.cad-solutions.co.jp/>

ログインには、事前にMCHS契約の主管理者または副管理者の登録が必要です。

2. [ダウンロード] → [MICRO CADAM Helix製品] → [マニュアル] → 「オンライン・マニュアル 最新版」を選択
3. [オンライン・マニュアル 最新版] → 「Manual_MCH_2024-R2.zip」を選択
4. 「ダウンロード」フォルダ→zipファイルを展開する
5. ファイル名：MCCUSTOMIZE.PDFを開く（右図参照）



- はじめに
- 第1章 カスタマイズについて
- 第2章 マウス
- 第3章 キーボード・ショートカット
- 第4章 ファンクション
- 第5章 メニュー
- 第6章 メッセージ
- 第7章 ユーザー・ボタン定義
- 第8章 イベント・スタック

- おすすめ動画コンテンツ


過去にお届けしたWebセミナーの動画です。

こちらにもいくつかメニュー・バーに関するご紹介がありますので、ぜひご覧ください。

➤ https://www.cad-solutions.co.jp/wp-content/uploads/Webinar2020_05.mp4

MICRO CADAM Helix

MICRO CADAM Helix 便利機能のご紹介



株式会社CAD SOLUTIONS


CAD SOLUTIONS Inc.

MICRO CADAM Helix

イベントスタックはMICRO CADAM Helixのマクロ機能です。使用頻度の高い操作をマクロとして登録しておくことで、次回以降はコマンドをクリックするだけで、登録した操作を繰り返し行うことができます！

2. イベントスタックの作成と実行

- 1) イベントスタックの作成と実行方法
- 2) イベントスタックの作成例
- 3) ユーザー定義アイコンへの割り当て
- 4) ツール・バーへの追加
- 5) 利用例のご紹介



CAD SOLUTIONS Inc.



MICRO CADAM、MICRO CADAM Helix は、株式会社CAD SOLUTIONSの商標です。
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。